

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第一中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1・3年生の国語は、「書くこと」の領域で、全国平均正答率と比べ大きく上回る。
○1年生の数学は、教科全体として、全国平均正答率と比べ大きく上回る。
○2年生の英語は、全国平均正答率と比べ、読むことはやや上回り、書くことは大きく上回る。
○3年生の理科は、教科全体として、全国平均正答率と同等、または上回る。
●2年生の国語は、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の問題において、全国平均正答率を大きく下回る。
●2年生の英語は、語形・語法の知識・理解の問題において、全国平均正答率を下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「書くこと」の領域では、全国平均正答率を大きく上回っている。 ○「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均正答率を上回っている。 ●「読むこと」の文学的な文章の内容理解を問う問題によっては、全国平均を大きく下回る正答率が見られた。	□文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げる学習活動を増やす。
	2年	○説明的な文章の内容を読み取る正答率は、全国平均を大きく上回っている。 ○「思考・判断・表現」の観点では、全国平均をやや上回る。 ●文法・語句に関する事項において、全国平均を大きく下回っている。 ●記述式の問題の無回答率がほかの問題に比べ、高い。	□振り返りや短文作りなど、書くことの時間を多く確保する。 □文法の問題を定期的に行い、定着を目指す。
	3年	○「書くこと」の領域では、全国平均正答率を上回っており、特に「自分の考えが相手に伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」力は大きく上回っている。 ○「読むこと」の領域では、全国平均正答率と同程度である。 ●「話すこと・聞くこと」(記述式)の領域において無回答率が高く、全国平均正答率を大きく下回っている。	□資料や機器を効果的に用いて自分の考えを相手に分かりやすく伝える学習活動を増やす。
数学	1年	○教科の正答率、領域別正答率とも全国平均正答率を大きく上回る。 ○問題の内容別正答率では、ほとんどの問題の内容において全国平均正答率を大きく上回る。 ●「いろいろなグラフの読みとり」ではやや下回る。 ●「いろいろなグラフの読みとり」の中で、目的に沿った適切なグラフを選択する問題が全国平均正答率を下回っている。	□特になし
	2年	○教科の正答率、領域別正答率とも全国平均正答率と同程度である。 ○問題の内容別正答率では、「文字式」において全国平均正答率をやや上回る。 ●「1次方程式」では下回る。 ●「1次方程式」のなかで、1次方程式を解いたり、比例式を解いたりする問題が全国平均正答率を下回っている。	□問題演習を多く取り入れる。方法として小テストや数学自学ノートの提出が考えられるが、タブレットドリルが導入されたので、定期的にタブレットドリルでの宿題を出す。
	3年	○「データの活用」の領域は全国平均正答率を大きく上回り、「図形」の領域では、やや上回る。 ○「数と式」の領域は全国平均正答率をやや上回り、「関数」の領域では、同程度である。 ●式の意味や問題解決の方法を説明したり、図形の性質を証明したりする問題で無回答率が30%を超えている。	□根拠を述べて、数学的表現を用いて説明したり、証明したりする機会を意図的に作る。
英語	2年	○1問を除いた残りの記述式問題の正答率が、全国平均正答率を上回るまたは、大きく上回る。 ○「書くこと」は、全国平均正答率を大きく上回る。 ●語形・語法の知識・理解の問題は、全国平均を下回る。 ●全国平均は上回るが、英文を聞き要点を捉えて考えを書く問題の正答率は低い。	□新しく学んだ文法事項について、定着を図るために学んだ後、単元終了時、学期終了時などの定期的に使う活動を行う。 □毎時間の帯活動として、聞き取り問題を実施する。また、聞き取った内容について、自分の考えを述べる言語活動や単元を設定する。
理科	3年	○2問を除いた残りの問題は、正答率が全国正答率と同等、又は上回る。 ○2問を除いて、難易度が高い問題に対しても、評価の観点、問題形式に関係なく正答率が上回っている。 ●理科の実験の課題を記述する問題では、全国に比べて正答率が上回っているが無回答も上回っている。	□実験等において、課題や根拠を言語化し、明確にしながら対話によってゴールにたどり着くことを繰り返す。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いで、自分の考えを積極的に話したり、相手の考えをしっかり聞き取っている生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○3年生は、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていると肯定的に捉えている生徒の割合は、全国に比べて大きく上回る。 ●授業中に「学習のめあて」が黒板などに示されていたと思う生徒の割合が、1年生は市に比べて下回り、2年生は大きく下回る。	○全校体制での授業改善への取組 □教科部を中心とした授業参観と協議を行う。 □単元及び1時間単位の目標(めあて)を明確にし、それを生徒と共有して(掲示する等)授業に取り組む。 □自分の思いや考えを表現する言語活動の充実を図り、各教科の資質・能力の育成を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○自分で勉強の計画を立てて、勉強している生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○自分で時間を決めて、テレビを見ている生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ●3年生で平日1日2時間以上勉強している生徒の割合は、全国を大きく下回る。 ●自主的な学習(辞書、参考書や問題集の活用)に取り組む生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく下回る。	○定期テストに向けた取組 □学習計画を立て、その取組を振り返る機会を設ける。 □面談等で定期テストの取組を保護者と共有し、家庭と連携して生徒を支援する。 ○「すこやかチャレンジ」の実施 □睡眠時間、学習時間、メディアの時間について、生徒自身が目標を設定し、自身の生活リズムを振り返る機会を年7回設ける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○1、2年生は、自己肯定感に関わる項目の割合が、全国に比べて大きく上回る。 ○3年生は、人が困っているときは進んで助けている生徒の割合が、全国に比べて上回る。 ●3年生は、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合が、全国に比べて大きく下回る。	○総合的な学習の時間の充実 □地域について調べ、役立てる方法を考えることで、学びが社会に生かせる実感できる学習を行う。 ○キャリア教育の充実 □特別活動や道徳で、自己を見つめ、生き方考える機会を増やす。 □キャリアパスポートをもとに、自己目標を設定し、振り返る時間を設ける。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第二中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【全国学力調査:中3対象】
○数学は、全国平均正答率と同程度である。
●国語は、全国平均正答率をやや下回る。
●理科は、全国平均正答率を下回る。
【市学力調査:中1・2対象】
○1・2年生の数学は、全国平均正答率と同程度である。
○2年生の英語は、全国平均正答率と同程度である。
●1年生の国語は、全国平均正答率を下回る。
●2年生の国語は、全国平均正答率を下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○目的や意図に応じた文章を書く問題の正答率は全国平均よりやや上回った。 ●「漢字を書く」の正答率が全国平均より大きく下回った。 ●文章を書く問題の正答率が全国平均より大きく下回った。	□漢字の小テストを繰り返し行う。 □「書く」領域の言語活動を充実させる。
	2年	○「活用」分野の正答率には県・全国平均と同程度であった。 ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域の正答率が全国平均を大きく下回った。	□漢字や文法事項に関する小テストを繰り返し行い、定着を図る。
	3年	○全体的な正答率は、県・全国平均と同程度であった。 ●「書く」領域の問題、記述式の問題に課題が見られた。	□「書く」領域の言語活動を充実させる。 □「型」を提示することで、書くことへの苦手意識の改善を図る。
数学	1年	○面積と体積を求める問題では全国平均を上回った。 ●小数・分数の計算では同分母分数の加法は大きく全国平均を大きく上回ったが、異分母分数の減法や乗法は全国平均を下回った。 ●関数や平均・場合の数などの分野では、全国平均を大きく下回るものがあった。	□分数の計算をする場面では、計算の手順を確認しながらスモールステップでポイントを確認する。 □反比例の表や場合の数の学習では、既習事項の振り返りをしてから取り組ませる。
	2年	○データの活用の領域は全国平均を上回った。 ●全体的に全国正答率を下回る。特に比例式を解く問題は、全国平均を大きく下回った。 ●比例・反比例の関係にあることを判断し、説明する問題は、全国平均をやや下回り、目標値を大きく下回った。	□計算練習などを取り入れ、定着を図る。 □連立方程式の学習で、一次方程式を振り返りながら進める。 □関数関係にあることを説明する場面に授業に取り入れる。
	3年	○データの活用の領域は全国平均をやや上回った。 ○角の大きさを求める問題では、全国平均を大きく上回った。 ●数と式の領域では、素数などの知識は身につけているが、連続する数の性質や、百分率の計算などで全国平均を下回った。 ●関数の領域の正答率で、全国平均を大きく下回った。	□数と式、関数の領域で、記述式の問いで無回答が多くあることから、授業の中で、自分の考えを書く活動を確保する。 □図形の領域でも、証明の記述において無回答が多く見られた。論理的に物事を考えて記述する活動を計画的に設ける。
英語	2年	○「読むこと」の領域の正答率が、全国平均を大きく上回った。 ○「聞くこと」の領域の正答率は、全国平均と概ね同程度であった。 ○「語形・語法の知識・理解」の問題や、「語彙の知識・理解」の問題の正答率が、全国平均を大きく上回った。 ●「書くこと」の領域の正答率が、全国平均を大きく下回った。 ●「場面に応じて書く」問題や、「3文以上の英作文」の問題の正答率が、全国平均を大きく下回った。	□授業の中でALTやICT機器を活用し、様々な英語に触れる機会を確保する。 □各単元で学んだ単語や文法事項を活用しながら、場面やテーマに沿って、自分の考えをまとめる形のライティング活動を計画的に設ける。
理科	3年	○全領域において「知識・技能」および「思考・判断・表現」の問題についての正答率は、全国平均と概ね同程度であり、一部上回った。 ○探求の過程における振り返りを記述する問題の正答率が、全国平均を上回った。 ●「エネルギー」の領域の、知識を活用して適切に課題を解決する分野の正答率が、全国平均を大きく下回った。 ●「化学」の領域の、知識を問う問題について、全国平均を大きく下回っており、無回答が特に多かった。	□実験を計画する段階で、これまでの知識から結果の予想をする機会を計画的に増やし、習慣化していく。 □ICT機器を活用した問題演習を繰り返し定期的に行い、知識の定着を図る。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができると回答した生徒の割合が全国平均を大きく上回った。 ●授業の冒頭にめあてを提示しているにも関わらず、授業の最後に学習したことを振り返る活動が少ない。	□ICT機器を使用するなどして、ほかの人の意見を共有したり自分で調べたりする活動を行うことで、より考えが深まるような授業づくりをする。 □振り返りシートを活用するなどして、学んだことを振り返るようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○計画を立てて勉強している生徒の割合が、全国平均を上回った。 ○家庭学習の時間は、全国平均と比べても大きな差はない。 ●家庭学習の時間は、全国平均と変わらないが、本や新聞を読んでいる人の割合が低く、その分、テレビやDVDを見た、テレビゲームをしたなどの割合が高かった。	□「健康」や「メディア」に関する学校全体での学習に取り組んだり、外部講師を招き入れての講演会などを開催したりする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○困っている人の手助けをしている生徒がやや多い。 ○地域や社会をよくする活動をしてみたいという気持ちの生徒が多い。 ●地域の大人に遊んでもらった経験が少ない生徒が多い。 ●地域の行事に参加している生徒が少ない。	□地域の支えによって、学校生活や様々な活動ができることを、生徒に伝えていく。 □ボランティア活動や地域の行事などに積極的に参加を促す。 □地域の方に学校の様子を伝えたり、見てもらう機会を大事にする。(ホームページの活用、授業参観の機会など)

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第三中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生国語の平均正答率は、市と同程度であり、全国よりやや上回る。
○2年生国語の平均正答率は、市、全国と同程度である。
●3年生国語の平均正答率は、県と同程度であり、全国より下回る。
○1年生数学の平均正答率は、市と同程度であり、全国より上回る。
○2年生数学の平均正答率は、市より上回り、全国と同程度である。
○3年生数学の平均正答率は、県、全国と同程度である。
○2年生英語の平均正答率は、市、全国と同程度である。
○2年生理科の平均正答率は、市、全国と同程度である。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全体の平均正答率は、市と同程度であり、全国よりやや上回っている。 ○「書くこと」の領域が全国正答率を上回っている。 ●「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」について課題がある。	○定期的に行っている漢字テストに引き続き取り組み、基礎・基本となる漢字の力を高めていく。 ○文法・語句について、当該単元のときは理解できるまで取り組むとともに、当該授業でないときも文法事項や様々な語句にふれたりそれまでの学習を想起させたりする学習を行う。 ○文章を書く折に漢字を努めて使うようにさせる。 ○「話す」「書く」活動において文法的に正しい表現を意識させる。
	2年	○『我が国の言語文化に関する事項』の問題については、全国正答率を上回っている。 ○「話すこと・聞くこと」については、全国正答率を上回っている。 ●話すこと・聞くこと以外のすべての項目で前年度校内平均正答率を下回っている。	○単元の中で、語句に関する復習ができる時間を取る。古典の内容については、改めて復習をする時間がとれないので、新単元の際に復習する時間を必ずとる。 ○説明的文章の学習で出てくる抽象的な語彙を整理し、学習用語を確認する。 ○「体験したことを文章に書く」内容では、他の内容に比べて大きく正答率が低いので、ミニ作文を実施するなどの時間を取るようにする。
	3年	●全体の平均正答率は、県と同程度であり、全国より下回っている。 ●「読むこと」の分野に関する問題では、短答形式の問題で無解答率が県、全国と比べると大きく上回っている。 ●『思考・判断・表現』の問題については全国平均の正答率と比較すると大きく下回っている。	○授業において文章全体と部分の関係に注意しながら、登場人物の設定について考えられるよう、表現に着目させる。 ○単元のレポートや授業の振り返りの仕方を工夫して、自らの考えを書かせる機会をとる。 ○「読むこと」を高める学習以外でも、根拠を明確にするよう促す。
数学	1年	○全体の平均正答率は、市と同程度であり、全国より上回っている。 ○『知識・技能』では25問中10問、『思考・判断・表現』では10問中5問の正答率が、全国平均より5ポイント以上高かった。 ●『知識・技能』では、整数の性質や図形の性質を使って計算すること、グラフを適切に読み取ること課題がある。	○基本的な計算の技能については、関連の学習に応じて復習を丁寧に行い、繰り返し練習しながら定着を図るような指導を行う。 ○自分の考えを式や表・グラフを活用して説明する問題を積極的に取り上げ、数学的な表現を使った説明に慣れさせる。 ○問題演習や小テスト等を活用したドリル学習で理解の定着を図る。個別指導を行うとともに主体的な学習に向かえるよう助言する。 ○家庭学習では、自学ノートに加えてタブレットドリルを活用する。
	2年	●全体の平均正答率は、市より上回り、全国と同程度である。 ●『知識・技能』の中で、文字で立式すること、おうぎ形の面積や中心角を求めること、累積総体度数を求めることに課題がある。 ●『思考・判断・表現』では、方程式や比例の文章題、データの分布から傾向を読み取ることや、それを根拠にして説明することに課題がある。	○文字式の基本となる同類項の計算を復習する、1次関数の単元で比例のグラフの復習をするなど、前年度の復習を交えながら知識・技能を確実なものにしているような指導を行う。 ○自分の考えを式や表・グラフを活用して説明する問題を積極的に取り上げ、数学的な表現を使った説明に慣れさせる。 ○学び直しの機会を意図的に設け、既習事項の定着を図る。 ○デジタル教材を活用する。
	3年	○全体の平均正答率は、県、全国と同程度である。 ●0問の割合が全国や県と比較して大きい。また記述式の問題の無回答率が全国や県と比較して大きい。 ●『知識・技能』では、素数や必ず起こる事柄の表し方について課題がある。 ●『思考・判断・表現』では、数学的な表現を用いて説明したり、証明したりすることに課題がある。	○学び直しの機会を意図的に設けて理解の定着を図る。 ○学習が困難な生徒に対して基礎基本に特化した反復練習を行う。 ○授業や小テストでの「記述練習」「途中式を評価」することを実施する。 ○グループ活動での意見共有や説明活動を通して表現力を養う。 ○デジタル教材を活用する。
英語	2年	○全体の平均正答率は、市、全国と同程度である。 ●聞くことの基本的な力はあるが、様々な英文の聞き取りでは、市や全国平均を下回り、課題がある。 ●並べかえや語形・語法の知識・理解の問題では、正答率が市や全国平均を下回り、課題がある。 ●長文の要点や必要な情報を読み取ることに課題がある。 ○英作文の正答率は市や全国平均を上回るものが多い。	○さまざまなリスニングの形式に慣れさせるために授業で聞く活動を行うとともに、どのように聞くのかきちんと指導する。 ○言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を行う。 ○関連ある文法事項を整理する時間を取り、「表現形式」や「意味」だけでなく「言語使用・場面」の視点からも使い方を指導する。 ○さまざまな英文の読み取りをし、自分の意見を書くような学習を行う。
理科	3年	○全体の平均正答率は、市、全国と同程度である。 ○スコア1の層が少なく、スコア3の層が多い。 ○思考判断表現の問題では、正答率が全国平均を上回るものが多い。 ●スコア5の層が少ない。 ●知識技能の問題では、正答率が全国平均を下回るものが多い。	○生活と関連した題材を取り扱い、生徒自身が課題を発見し探究していくことができる学習活動を行う。 ○実験や観察を多く実施する。仮説をもとに観察や実験の計画を立てる活動を行う。 ○ドリルパークなどのデジタル教材を活用したり、内容ごとに小テストを実施したりすることで、基本的な知識技能の定着を図る。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付くことができる。」と答えた生徒の割合が高い。 ●「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と答えた生徒の割合は全国よりやや低い。 ●「授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つ」「授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている」と答えた生徒の割合は県、全国よりやや低い。	○課題解決における話し合い・学び合いの意義を理解し、意欲的に取り組める生徒の割合が多いので、それをいかに、深い学びにつながるような授業構想を行う。 ○国語科に限らず、各教科において、生徒が自分の考えを論理的かつ明確に伝える力を育成するための発表活動や説明の機会を意図的に設ける。 ○生徒が授業で学んだことを普段の生活の中で活用できるようにするために、実生活とのつながりを意識した「問い」や「ふりかえり」の工夫を行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」と答えた生徒の割合は全国より高い。 ○平日の学習時間で1時間以上している生徒の割合は県、全国より高い。 ●本を読んでいる生徒や勉強に図書館や辞書を活用している生徒の割合は全国より低い。	○生徒の実態に合った適切な学習課題を提供するとともに、家庭学習への取組が授業の理解につながることを意識して、授業改善を行う。 ○望ましい学習習慣につながる学習方法を生徒の実態に合わせ、助言する。 ○授業の中で、図書を通して学びが深まったり、自分の世界を広げたりする経験を積み重ねさせ、自ら図書に親しみ、活用する意欲を高めていく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と答えた生徒の割合は全国より高い。 ●地域の行事に参加している生徒の割合は全国よりやや低い。	○保護者やコミュニティセンター等地域の理解や協力のもとに、一層の連携を図り、「総合的な学習の時間」を中心に、地域資源「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、地域に貢献する意義を理解し、かつ意欲を高めるような学習活動を設定する。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立河南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生の学力調査では、国語においては、全国平均正答率を上回り、数学においては大きく上回っている。
 ○2年生の学力調査では、国語においては、全国平均正答率をやや上回っており、数学、英語においては同程度である。
 ○3年生の学力調査では、国語においては、全国平均正答率を大きく上回っており、数学においては上回っている。理科においては、全国平均IRTスコアを上回っている。
 ○1、2年生の生活行動・学習活動調査では、「夜は、時刻を決めて寝ている」、「困っている人の助けをしている」、「家の人から言われなくても、進んで勉強している」という質問の肯定的な回答の割合が全国の割合を大きく上回っている。
 ●1、2年生の生活行動・学習活動調査では、「勉強に辞書を利用している」、「予習をしている」という質問の肯定的な回答の割合が全国の割合を大きく下回っている。
 ○全学年の生活行動・学習状況調査では、起床・就寝時刻、朝食をきちんと食べているなどの生活習慣が身につけている生徒の割合が全国の割合と同程度または、上回っている。
 ●全学年において、新聞を読んでいる生徒の割合が1、2年生で1割程度、3年生で2割程度である。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○領域別、観点別、全て全国平均正答率を上回る。特に「書くこと」は全国平均を大きく上回る。記述式問題において無回答率が低い。 ●問題別では、「文法・語句に関する事項」の正答率が半数以下だったことから、語彙や言葉の知識不足、文法を正しく使い、活用する力に課題があるといえる。	□語句や文法など言語に関する学習を繰り返し行ったり、言葉に関する知識を紹介したりする。 □ドリルパークを活用し、文法の復習をする機会を増やしていく。
	2年	○領域別、観点別、全て全国平均正答率を上回る。特に「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」の問題は全国平均を大きく上回る。 ●問題別では、「漢字を書く」の正答率が半数だったことから、漢字を正しく覚え、活用する力に課題があると言える。	□学習した新出漢字を使って作文するなど活用する機会を増やす。 □月例漢字テストに向けての学習を通して、漢字を正しく覚える練習方法を身につけられるようにする。 □ドリルパークを活用し、小学校で習った漢字も復習する機会を増やす。
	3年	○領域別、観点別、全て全国平均正答率を上回る。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題は全国平均を大きく上回る。 ●問題別では、「理由を考えて説く問題」の正答率が全国平均を下回っていたことから、出来事や物事の理由を考える力に課題があると言える。	□作文課題などに積極的に取り組みせ、推敲をしたり、自分の意見の理由を根拠をもって書かせたりする。
数学	1年	○領域別、観点別、全てで全国・市の平均正答率を上回っている。特に「図形」「データの活用」の領域では、全国平均を大きく上回っている。 ○記述式の問題においても、全国平均を大きく上回っている。 ●問題別においては、「図形」の1問と「データの活用」の1問で目標値を下回っている。	□「数と計算」の領域では、中学校での学習内容は小学校での基礎が必要であることをふまえ、既習事項と合わせ、復習しながら学習を進めていきたい。 □数学の学習に主体的に取り組めるよう、各単元において、既習事項を活用することでどのような場面の問題解決に役立つのかを意識づけし、数学を活用することの良さや有用性に気付かせる。
	2年	○与えられた事象が比例の関係であることへの理解および回転体の図形の理解は全国平均正答率を大きく上回っている。 ●知識技能において、負の数の減法、おうぎ形の面積や中心角の求め方は目標値を大きく下回っている。 ●文章題から立式する、式の特徴をもとに判断の理由が説明する、判断するための根拠を示すなどの論理的思考に課題がある。	□数と式の計算は、日ごろの学習の中に組み込みながら、反復しながら定着を図る。 □知識や技能の習得についても、答えを求めるだけでなく、その答えが何を意味しているかをじっくり考えさせていく。そして文章題を通して、分かっていること(条件)と求めたいことを書き出しながら、解法の手順を考えさせていく。
	3年	○領域別、観点別、すべてで全国平均正答率を上回っている。特に「数と式」、「図形」、「データの活用」の3領域では、全国平均を大きく上回っている。 ●問題別においては、「データの活用(確率)」の1問と「関数」の1問で全国平均を大きく下回る。 ●記述式では無回答率も高くなる傾向にある。	□1、2年で学習した内容について、「方程式」、「関数」、「図形」には系統性があるため、既習内容の復習をしたり、比較をしたりしながら学習を進め、より深い学びとなるよう指導をしていく。 □各単元において、既習事項を活用することでどのような場面の問題解決に役立つのかを意識づけし、数学を活用することの良さや有用性に気付かせる。
英語	2年	○領域別では、「読むこと」において全国平均正答率をやや上回っており、「聞くこと」、「書くこと」においては同程度である。 ○観点別では、「思考・判断・表現」において全国平均正答率をやや上回り、「知識・技能」においては同程度である。 ●問題別では、「単語の並べかえによる英文作」が全国・市の平均正答率を大きく下回っている。	□単語や語順等の基礎・基本の定着を図る。ドリルパークでの反復練習と単語や文型の小テストを定期的に行い定着を図る。 □様々な内容の英文を聞いたり、読んだりして、必要な情報や内容を聞き取ったり、読みとる機会を増やす。
理科	3年	○領域別、観点別において、全国平均正答率と同程度である。 ○IRTバンドの「3」、「5」の割合が全国平均を上回っている。 ●「粒子」と「地球」の領域で、全国平均を下回る問題がある。 ●短答式においては、元素記号を記述する問題で、無回答率が全国平均を上回っている。	□重要語句や元素記号などの基礎・基本の定着を図るため、AIドリルによる反復練習や小テストなどを定期的に行う。 □各単元において、探究の過程を生徒自身が取り組めるように、身のまわりの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための課題の設定を行う機会を設ける。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1、2年生において、「授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた」と肯定的に回答した生徒が8割を超えており、話し合い活動が効果的に行われていると考えられる。 ●1年生においては、「授業で分からないことがあれば質問をしている」生徒の割合が全国の割合を下回っている。 ●3年生においては、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」、「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と肯定的に回答した生徒が8割程度だが、全国の割合を大きく下回っている。	□指導力向上に向けて、研究授業や、ICT機器活用のための研修を実施する。 □ペアやグループでの活動を通して、生徒が関わり方のスキルを身につけ、お互いに安心して意見や考えを伝え合ったり、聞き合ったりできる雰囲気づくりをする。 □教師が生徒の理解度やつまづきを振り返りシートなどで確認したり、ICT機器を通して生徒が質問しやすい環境を整えたりする。 □授業では、個人思考の時間を確保し、互いの考えを交流させ、多様な意見や考えを共有し、深い学びにつなげられるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○起床時刻や就寝時刻、遊ぶ時間、家庭学習等、自分で決めて実行しており、基本的な生活習慣は概ね身につけており、家庭学習の習慣も概ね身につけていると考えられる。 ●「授業のために予習をしている」と回答した生徒の割合が全国の割合を下回る。 ●新聞を読んだり、ニュースを見たり、勉強に役立つテレビ番組を見たりする生徒の割合が全国の割合を下回る。	□各教科で、学習内容と普段の生活とのつながりを示したり、生徒が興味・関心を抱き、自ら考えたり、調べたりするなど、主体的に学習できるような課題を設定したりする。 □各教科でドリルパークを活用し、授業と家庭学習をつなげる。 □次時の授業の学習内容の伝達を丁寧に行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「学校での出来事を、家の人に話している」と肯定的に回答した生徒の割合が全国平均を上回っており、家庭での対話が図られていることがうかがえる。 ●「自分が住んでいる地域が好きである」と肯定的に回答した生徒は8割を超えるが、「地域の行事に参加している」と肯定的に回答した生徒の割合が全国の割合を大きく下回っている。	□学校だよりや学年・学級だより、ブログ等を通して学校での出来事を発信し、家庭での会話の一助となるようにする。 □地域のボランティア活動や行事など、生徒が意欲的に参加できるものについて、積極的に情報提供を行ったり、参加を促したりする。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立浜山中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生の国語は、市の平均正答率を大きく下回り、全国の平均正答率を下回っている。
- 1年生の数学は、市の平均正答率を下回り、全国の平均正答率と同程度である。
- 2年生の国語は、市の平均正答率と同程度で、全国の平均正答率を下回っている。
- 2年生と3年生の数学は、市、全国ともに平均正答率と同程度である。
- 2年生の英語は、市の平均正答率と同程度で、全国の平均正答率を下回っている。
- 3年生の国語は、県の平均正答率を大きく上回り、全国の平均正答率も上回っている。
- 3年生の理科は、県の平均正答率同程度で、全国の平均正答率は下回っている。
- 3年生において、「学校に行くのが楽しい」という質問に対して「当てはまる」という回答が、県平均、全国平均をとともに大きく上回っている。
- 「困っている人の手助けをしている」と肯定的に回答した割合が、1、2年生は全国平均を大きく上回り、3年生も上回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○7～9行で、伝えたいことを明確にして書くことは、全国平均を大きく上回っている。 ●話の内容を捉え、適切な質問をすること、資料から読み取ったことを書くことは、全国平均を大きく下回っている。	・表やグラフ、文章など複数の資料を読み取って、自分の考えを条件に従って書く活動を取り入れる。
	2年	○話し合いで、自分の考えや根拠が明確になるよう構成を考えると、読み手の立場になって文章を整えて書くことは、全国平均を大きく上回っている。 ●文学的な文章の内容を読み取ることは、全国平均を大きく下回っている。	・文学的文章の描写から、登場人物の心情や表現の効果を読み取り、それに基づいて自分の考えを持つ活動を取り入れる。
	3年	○根拠を明確にして書くこと、表記を確かめて文章を整えること、資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫することは、全国平均を大きく上回っている。 ●書く内容の中心が明確になるように構成や展開を考えると、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することは、全国平均を大きく下回った。	○同じ「話す・聞く」の「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」の項目の中でも、「資料や機器を用いる」は高いが「相手の反応を踏まえながら」はスコアが低いので、ペア学習やスピーチ等で、相手を意識して「話す」活動を取り入れる。
数学	1年	○ほとんどの項目で全国の平均と同等の結果である。 ○平面図形の円周を求める問題では、全国平均を上回っている。 ●グラフの読み取り問題では、全国平均を下回っている。	○毎時間取り入れている小テストを継続し、前時の復習と演習問題をする中で、基礎基本の定着を図る。 ○課題でドリルパークに取り組みさせることで、家庭学習でも基礎基本の定着を図る。 ○授業内で、自分の考えを根拠として説明したり、書いたりする時間を確保する。
	2年	○図形や資料からデータや特徴を読み取る問題では、目標値を上回っている。 ●立式する問題や説明する問題などの記述問題は、正答率が低く、無解答の生徒も多い。	○小テスト、単元テストを用いて基礎力の定着を図る。 ○授業時にペアやグループ活動を行い、説明する機会を増やし、記述する力も身につける。
	3年	○「知識・技能」は、県を上回り、全国と同程度である。 ○「確率」の領域は、回答の形式に関わらず県と全国を大きく上回っている。 ●「思判表」は県と同程度で全国を大きく下回っている。 ●「図形」は、選択式の問題は、県を上回り全国と同程度だが、短答式、記述式の問題では、県と全国を大きく下回った。	○計算などの基礎基本は繰り返し学習して定着を図る。単に方法だけを覚えるのではなく、基本的な数や式の性質も理解して技能へ活用させる。 ○関数・図形は数学用語を使いながら説明する場面を多く設定して、思考力・判断力・表現力を養う。 ○すべての領域において「式を読むこと、証明を読むこと」にも力を入れ、それが何を意図しているのか考える場面を設定する。
英語	2年	○語の並べ替えによる英作文や、長文の読み取りの中でも、適語補充など、短答の正答率は市平均、全国平均と比べて差は見られない。 ●情報に基づいて書く英作文などの、思考力・判断力・表現力が問われる問題では、全国平均と比べて正答率が大きく下回っている。	○作文をするために必要な語彙を増やすために、単語や熟語を文章の中で使う練習を行う。 ○より多くの例文に触れ、自分が作文をする際に使える表現を増やす。 ○英語を苦手とする生徒も多いため、ペアやグループでの活動を利用して、得意な生徒が苦手な生徒に教えるなど、生徒同士で学び合う体制を作りながら授業を進める。
理科	3年	●全国の平均を下回っている。 ○化学分野は全国平均より高い問いもある。 ●生物・地学の記述問題や応用問題は正答率が低い。 ●パーセンタイル50% ・基礎的内容は定着しているが、活用・説明・記述は低い。 ●パーセンタイル75～90% ・基本的内容できているが、探究的・論理的思考力が低い。	○授業で「なぜ？」を考えさせたり、仮説、実験、結果、考察などを論理的にまとめたりする場面を増やす。また、図やグラフから情報を読み取る場面を意図的に設定する。 ○探究学習や調べ学習などの応用的な学習を通じて主体的に考える機会を増やしたり、「なぜそうなるか」を説明させる場面を増やしたりする。 ○全体的に1～2年生の内容で無回答が多かったので復習も繰り返し行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○3年生の総合的な学習について「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」に肯定的な回答は全国の平均を大きく上回っている。 ●3年生について「自分で学び方を考え、工夫することができる」の回答は全国平均を大きく下回った。 ●ICTの活用については1～3年生ともに、使用頻度が県平均、全国平均と比べて大きく下回っている。	○教員を対象としたICT機器活用した授業の校内研修の設定や、ICTを活用した授業の実践共有を行う。 ○タブレットドリルや個別最適な学びを取り入れたり、様々な家庭学習内容を紹介したりすることで、生徒が自分に合った学びを調整できる力をつける。 ○総合的な学習の時間だけでなく、いろいろな授業において、個人で思考する場面や学び合いの場面を効果的に取り入れ、探究的な学習を設定する。考える視点を明確にし、対話的で深い学びになるような授業づくりをする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「宿題はきちんとしている」「返された答案は見直しをしている」「勉強するときは集中して勉強している」の回答は全国平均を大きく上回った。 ●3年生について「学校の授業以外で2時間以上勉強している」の回答は全国平均を大きく下回った。	○各教科で、家庭学習の課題を継続的に出したり、学習進度に合わせた学習内容を紹介したりして、生徒が自主的に学習に取り組む支援を行い、基礎学力の定着を図る。また、課題の内容の工夫に努める。 ○タブレットドリル等も活用し、生徒一人一人に合わせた学習内容が選択できるようにする。 ○定期テスト前の学習計画表を活用したり、生活習慣の見直しを学校と家庭で連携して行ったりして、家庭学習時間の確保、学習の質の改善を図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○1、2年生において、「困っている人を助けている」、「自分が住んでいる地域が好きである」、「自分のことが好きである」、「自分には良いところがあると思う」について肯定的な回答をした生徒が全国平均を大きく上回っている。 ●「言葉を使ったパズルで遊ぶことがある」は全国平均を大きく下回っている。	○学校・学年だより等を通じて、地域や保護者への情報発信を積極的に行う。また、地域学校運営理事会や学習公開日等でも、生徒会活動や部活動での生徒の様子を伝える。 ○総合的な学習の時間や学校行事等を通じて、地域についてより深く学ぶことのできる学習活動を行う。 ○生徒が地域で活動する機会をもち、地域の方に活動の様子を見ていただく。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【出雲市学力調査の結果】 ○1年生の国語の正答率は全国、出雲市の平均正答率を大きく上回る。 ○1年生の数学の正答率は全国、出雲市の平均正答率を大きく上回る。 ○2年生の国語の正答率は全国と同程度で、出雲市を上回る。 ●2年生の数学の正答率は全国をやや下回り、出雲市と同程度である。 ●2年生の英語の正答率は全国、出雲市を下回る。 【全国学力調査の結果】 ○3年生の国語の正答率は全国と同程度で、島根県を上回る。 ○3年生の数学の正答率は全国、島根県の平均正答率を大きく上回る。 ○3年生の理科の平均IRTスコアは全国、島根県を上回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○教科全体の正答率は、目標値を大きく上回り、「基礎」「活用」も目標値を大きく上回る。また、領域別に正答率を目標値と比較しても、全ての領域において大きく上回る。 ○問題の内容別正答率では、「文法・語句に関する事項」について、全体としては大きく目標値を上回るが、●「敬語について理解し、正しく使っている」については、大きく下回る。	□文法・語句に関する力を高めるための学習活動を行う。 ・小学校の既習事項(5、6年生)を確認する。 ・敬語については、中学校での学習内容と関連を図りながら進める。
	2年	○領域「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、目標値を大きく上回る。 ●領域「情報の扱い方に関する事項」は、目標値を大きく下回る。 ○問題の内容別「文章を書く」は、目標値を大きく上回るが、●「体験したことを文章に書く」に関する問いのうち、「情報と情報との関係の理解」等、目標値を大きく下回るものがある。	□情報を判断する力を高めるための学習活動を行う。 ・文章や写真、図表などを正確に読み取る。 ・自分なりの根拠をもった情報をもとに、意見交流する。 ・情報の再解釈をする際に、既有的知識と関連付けた判断をする。(表化・グラフ化・図式化・要約化・情報の信憑性・作者の意図等)
	3年	○教科全体の正答率は、全国と同程度。領域「書くこと」は、全国を大きく上回り、特に、「文章を整える」に関して、全国の正答率を大きく上回る。「読むこと」は、全国をやや上回る。 ●領域「話すこと・聞くこと」は、全国を大きく下回る。問題内容「資料や機器を用いて、自分の考えが伝わるように表現を工夫できるか」を選択する問いについて、全国正答率を大きく下回る。	□「話すこと・聞くこと」の力を高めるための学習活動を行う。 ・話し合い活動を活用し、多様な視点を共有し合う。 ・多様な思考をもとに自分の考えを再検討し、他者に伝わる表現方法を工夫する。 ・相手意識をもち、書き手の意図を自分の言葉で再構成できるようにする。 ・自身の思考のプロセスを言語化する。
数学	1年	○教科全体の正答率は、全国を大きく上回り、「基礎」「活用」も大きく全国平均を大きく上回る。 ○すべての領域別正答率、問題の内容別正答率で全国を大きく上回る。 ●個別の問題では、「小数×小数」「合同な図形」「単位量あたりの大きさ」について、全国平均を大きく下回る。	□「学び合い」学習を通して、学習内容の定着と向上を図る。 □計算の技能の定着 ・整数、分数だけでなく、小数の計算練習を適宜行い、計算技能の定着を図る □図形の性質の理解を高めるための学習活動 ・小学校の学習内容を確認する。 ・具体物を使った学習を通して、図形の性質を見出す。
	2年	●教科全体の正答率は、全国をやや下回り、「活用」は全国を大きく下回る。 ○問題の内容別では「正の数・負の数」「空間図形」で全国を大きく上回る。 ●「比例・反比例」「平面図形」「データの分布の傾向」で全国を大きく下回る。	□「学び合い」学習を通して、学習内容の定着と向上を図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 □確認テストを行い、基本的な内容の定着を図る。 □「比例・反比例」については学び直しをしながら既習事項と関連付けて学習を進めていく。
	3年	○教科全体の正答率は、全国を大きく上回る。 ○すべての領域で全国を上回るか同程度であるが、特に「図形」「データの活用」で全国を大きく上回る。 ○観点「知識・技能」「思考・判断・表現」で全国を大きく上回る。問題形式では「選択式」「記述式」で全国を大きく上回る。 ●個別の問題では「文字式で表す」「一次関数でyの増加量を求める」について、全国を大きく下回る。	□「学び合い」学習を通して、学習内容の定着と向上を図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 □確認テストを行い、基本的な内容の定着を図る。 □「関数」については学び直しをしながら既習事項と関連付けて学習を進めていく。
英語	2年	●教科全体の正答率は全国を下回り、「活用」は大きく下回る。 ●領域はすべて全国を下回り、中でも「読むこと」は大きく下回る。 ●観点「知識・技能」は全国を大きく下回り、「思考・判断・表現」はやや下回る。 ○問題の内容別「単語の並べかえによる英作文」「3文以上の英作文」は全国を大きく上回るが、「さまざまな英文の読み取り」「情報に基づいて書く英作文」は大きく下回る。	□文章を読み取る力の向上を図る。 ・言語活動、自学ノートへの取組、小テストの実施を通して、語彙力や文法力を高める。 ・文章を読む際に、事実と考えを区別しながら、各段落の主な内容や段落間の関係を把握し、概要を捉えられるようにする。 □既習表現を使って書く力の向上を図る。 ・既習の文法事項について繰り返し確認し、文法を理解して正確に書けるようにする。 ・場面や状況に応じて、表現の使い分けができるようにする。
理科	3年	○教科全体の正答率は、全国を上回る。 ○領域別に正答率を目標値と比較しても、ほとんどの領域において全国を上回るか、同程度であるが、特に「粒子」を柱とする領域で大きく上回る。 ●疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することについて、全国、島根県を下回る。	□毎時間の「振り返りシート」の活用を通して、学習内容の定着を図る。 ・毎時間の授業で振り返りシートを記入させる。 ・各章ごとに、学習内容を記述させ、表現力を養う。 □学習におけるそれぞれの過程を意識させる。 ・課題に対して、これまでの経験や知識をもとに、情報を整理する。 ・見通しをもち、仮説を確かめるための観察・実験を立案させる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」、「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている」という生徒の割合が、全国平均を大きく上回る。 ○「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている」という生徒の割合が、全国平均を大きく上回る。	□「人とかかわりを通して、主体的に学び合い高め合える生徒の育成」を意識した各教科での授業づくりを行う。 □授業や行事等で自分の考えや思いを伝え合う場面を増やし、「学び合い学習」や「相互理解」につながる活動を継続する。 □各学年月1回の「だんだんタイム」(アドジャン)を継続して実施する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家の人から言われなくても、進んで勉強している」、「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」、「勉強にパソコンを利用している」という生徒の割合が、全国平均を大きく上回る。 ●「新聞の記事を読んでいる」という生徒の割合が小さい。 ○●家庭での学習習慣は概ね定着していると考えられるが、より主体的な学びにつながる学習の工夫が必要である。	□今後も見直しをもって学習に取り組めるよう支援・指導する。 □学校図書館には新聞閲覧コーナーがあり、数種類の新聞を読むことができる。朝終礼や授業でも、新聞記事を紹介し、現代社会の出来事やさまざまな科学文化に触れる機会を設ける。 □タブレットや自学ノートの活用など、個別最適な学びを通して、主体的に必要な力を身につけていけるような家庭学習をめざして各教科で支援する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「学校での出来事を、家の人に話している」、「自分は、家の人から認められていると思う」という生徒の割合が、全国に比べて大きい。 ○「自分の地域が好きである」、「地域の行事に参加している」という生徒の割合が、全国に比べて大きい。 ○「人の役に立つ人間になりたい」、「地域や社会をよくするために何かしたい」という生徒の割合が、全国に比べて大きい。	□ふるさとの良さや課題に目を向け、地域資源を生かし、3年間を見通した系統的な学習を実施する。 □道徳の時間や特別活動を通して、自己を見つめ、自己の生き方を考える機会を設ける。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○学校が好きだという生徒の割合が高く、ほとんどの生徒が楽しく学校に通っている。 ○起床時間、就寝時間など規則正しく生活できている生徒が多い。 ○3年生では国語は全国平均とほぼ同程度、理科、数学では全国平均を上回り良好な状況である。 ○2年生では国語、数学ともに全国平均と同程度であった。 ○1年生では国語は全国平均と同程度、数学は全国平均を上回り市平均と同程度で良好な状況である。 ●家庭学習の時間が少ない。 ●2年生の英語では全国平均、市平均ともに下回る状況である。
--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	全体の正答率は市平均、全国平均と同程度であった。「活用部分」は、市平均をやや上回り、全国平均を上回った。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の事項は市平均をやや上回り、全国平均を上回った。「聞き取る問題」は市をやや上回り、全国を上回っている。「文章を書く問題」は市と同程度であるが、全国を大きく上回っている。 ●「文法・語句に関する」事項は市をやや下回り、全国を下回っている。	□漢字の小テストを定期的に行い、家庭学習の習慣化と言葉に関する知識・技能の定着を図る。 □語彙、表現技法、文法等の言語事項について定期的に振り返り、理解の定着を図る。
	2年	全体の正答率は全国平均と同程度、市平均をやや上回っていた。 ○領域別正答率でみると、「読むこと」が市平均、全国平均ともに大きく上回っている。「我が国の言語文化に関する事項」は市平均と同程度、全国平均を大きく上回っている。 ●問題の内容別に見ると、「漢字を書く」は市平均では同程度、全国平均では大きく下回っている。「文章を書く」では市平均、全国平均ともに大きく下回っている。	□漢字の小テストを定期的に行い、家庭学習の習慣化と言葉に関する知識・技能の定着を図る。 □語彙、表現技法、文法等の言語事項について定期的に振り返り、理解の定着を図る。 □書く活動・ペア、小グループによる話し合い活動を継続し、思考力・表現力の伸長を図る。
	3年	県平均を上回り、全国平均とほぼ同程度であった。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関して、県平均、全国平均を上回っている。 ●「言葉の特徴や使い方に関しては、県平均、全国平均を下回っている。 ○問題形式ごとの正答率をみると、短答式では県平均、全国平均とほぼ同程度であるが、短答式、記述式では県平均、全国平均を上回っている。	□漢字の小テストを定期的に行い、家庭学習の習慣化と言葉に関する知識・技能の定着を図る。 □語彙、表現技法、文法等の言語事項について定期的に振り返り、理解の定着を図る。 □書く活動・ペア、小グループによる話し合い活動を継続し、思考力・表現力の伸長を図る。 □生徒の興味・感心を高めるために、教材文と関連する話題を提供したり、発展的な内容に取り組んだりする。
数学	1年	市平均とほぼ同程度であった。 ○領域別正答率でみると「数と計算」「変化と関係」が市、県平均を上回っている。「図形」「データ」の活用はほぼ同程度であった。 ○問題の内容別正答率をみると「小数・分数の計算」「百分率」「比と比例・反比例」が市、全国平均を上回っている。 ●「単位量あたりの大きさ」「いろいろなグラフの読み取り」が市、全国平均を下回っている。	□家庭学習の取組を充実させ、知識・技能の定着を図る。 □小テストを実施し、定着度をはかる。 □単純な計算問題だけでなく、文章やグラフを読み取る力が必要となる問題を授業の中でも扱う。
	2年	市平均とほぼ同程度であった。 ○領域別正答率をみると「図形」に関して、市平均、全国平均を上回っている。 ●「図形」以外の領域では、市平均、全国平均を下回っている。 ○問題の内容別正答率をみると、「平面図形」「空間図形」に関して、市平均、全国平均を上回っている。 ●「1次方程式」「比例・反比例」は市、全国平均を下回っている。	□小テストを実施し、定着度をはかる。 □家庭学習に継続的に取り組めるような効果的な課題を出す。
	3年	県、全国平均を上回っている。 ○学習指導要領の領域に関して、県、全国平均を大きく上回り、特に「図形」に関して、大きく上回っている。 ○評価の観点では、「思考・判断・表現」に関して、県、全国平均を上回っている。 ○問題形式では「記述式」に関して、県、全国平均を上回っている。	□授業や定期テスト等で、記述式の問題を解かせることを引き続き行う。 □単元の終末では、基本的な計算だけでなく、思考する問題演習に取り組む時間を確保する。
英語	2年	市平均をやや下回り、全国平均を下回る。 ○問題の内容別では「語形・語法の知識・理解」、「さまざまな英文の読み取り」は市平均と同程度の正答率であった。 ●領域別では「読むこと」は市平均と同程度であるが、「聞くこと」「書くこと」では市平均を下回る。	□ICTを活用した週末課題を継続的に実施するとともに、基礎基本の定着を図るための小テストを行う。 □既習事項を活用し、さまざまな場面や状況に応じ、適切に表現する課題を単元ごとに出す。
理科	3年	県、全国平均を上回っている。 ○学習指導要領の領域に関して、県、全国平均を大きく上回っている。 ○選択式・記述式に関わらず、問題に対する正答率は、県、全国平均を上回っている。 ●「地球」を柱とする領域の正答率は、県・全国平均と下回っている問題が多い。	□ICTを活用して基礎基本の定着を図る。 □小テスト等で知識・技能の定着を図ったりして、「地球」を柱とする領域への指導を工夫する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○3年生では理科の学習が好きで得意だとう生徒の割合が高かった。 ○1、2年生ともに授業に真面目に取り組み、学習内容がよくわかると回答している生徒が多かった。 ●3年生では国語については好きだという生徒、得意だとう生徒の割合が低かった。 ●3年生では国語、数学で授業の内容がわからないという生徒の割合が高かった。	□各教科で生徒の関心・意欲が高まるよう課題、資料提示、活動等を工夫する。 □授業後の振り返りを行い内容の定着度を測るとともに個々の状況を把握し、以後の支援に生かす。 □各教科での研究授業の実施。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●家庭での学習時間が少ない、3年生では1日2時間以上学習している生徒が、県平均、全国平均ともに下回っている。まったく学習しないという生徒の割合も全国平均より多い。 ●学習塾等で学習してる生徒の割合も低い。	□各教科での家庭学習の課題を出し、小テストを行い内容の定着をめざす。 □生徒の家庭での学習状況を把握し、継続的な指導を行う。 □ドリルパークの活用。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域に愛着を持っている生徒が多い。地域の行事等にも参加する意欲が高い。	□地域とのつながりをもった総合的な学習への取組。 □ボランティア活動の活性化。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立向陽中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生の国語は、市、全国ともに平均正答率と同程度でした。
- 1年生の数学は、市、全国平均正答率を下回りました。
- 2年生の国語は、市、全国平均正答率を下回りました。
- 2年生の数学は、市、全国平均正答率を大きく下回りました。
- 2年生の英語は、市、全国平均正答率を下回りました。
- 3年生の国語は、県の平均正答率と同程度でした。全国平均正答率を下回りました。
- 3年生の数学は、県、全国平均正答率を大きく下回りました。
- 3年生の理科は、県、全国平均正答率を下回りました。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「書くこと」において正答率が全国平均を上回っています。 ●「話の内容を捉え、適切な質問をする」の正答率が全国平均を下回っています。また、無回答率が23%を占めています。	○「書くこと」において、作文を書く機会を増やすとともに、自分の書いたものを推敲する習慣付けを行います。 ○聞く姿勢を整えることで、注意深く聞きとる力を育成します。またペアワークなどで、相手に伝わるような質問の仕方を構築していきます。 ○漢字に関する知識・理解を深め、日常生活で使用する漢字の知識の定着を図るため、書取会を行います。
	2年	○「聞き取り」に関する正答率が高く、全国平均を上回っています。 ●領域では、「文法・語句に関する事項」に課題があり、歴史的仮名遣いや口語文法の正答率が全国平均を下回っています。	○漢字に関する知識・理解を深め、日常生活で使用する漢字の知識の定着を図るため、書取会を行います。 ○タブレットドリルなどを使い、既習の文法事項を定期的に復習できるような機会を設けます。 ○聴写や聞き取りテストなど、注意深く聞きとる力を伸ばす取り組みを継続していきます。
	3年	○「知識・技能」は、県、全国平均を上回っています。 ●「書くこと」、「読むこと」に課題があり、特に「読み手の立場に立って文章を整える問題」では正答率が全国平均を大きく下回り、また無回答率が25%を占めました。	○漢字に関する知識・理解を深め、日常生活で使用する漢字の知識の定着を図るため、書取会を行います。 ○説明文の学習で、文章の構成、筆者の主張、事実と主張の区別を正確に捉えられるよう設問を工夫し、読み取りの理解を深めていきます。 ○作文を書く機会を増やし、自分の書いたものを推敲する習慣付けを行います。よりよい文章にするため、作文を個別に添削します。
数学	1年	○「数と計算」、「図形」に関する学習に強みがあります。 ●全領域で正答率が市平均を下回っています。特に「データの活用」で全国平均を下回る正答率となっています。 ●少数・分数の計算、比と比例・反比例、いろいろなグラフの読み取りなどの解決に課題があります。	○小数・分数、文字式など、計算の復習を取り入れながら学習を進めていきます。 ○比例と反比例については小学校の復習をします。式、表、グラフなどの基礎的な学習を進めていきます。 ○単元末やテスト前など機会を捉え、定期的に関題演習を行います。
	2年	●全領域で全国平均・市平均を大きく下回る正答率となっています。 ○「比例・反比例」の領域において必要な数量を見つけて出すことに強みがあります。 ●根拠を述べたり、説明する問題での正答率は全国平均を下回っており、無回答率も高くなっています。	○基本的な知識の復習を多く取り入れ、基礎知識の定着を行います。 ○基礎的な内容を中心とした単元ごとのテストや小テストを、定期的に行います。 ○記述式の問題の出題、考え方の表現できる機会を設けます。
	3年	●全領域の正答率は県、全国平均を大きく下回っています。 ○「数と式」の領域では素数の意味理解に強みがあります。 ●「関数」の領域では、表、式、グラフの関係の理解や、数学的に説明することに課題があります。 ●記述式の問題や文章問題で正答率が下がり、無回答率が高くなっています。	○基本的な知識、技能を習得する学習に加え、数学的用語の定着や、問題解決する際に数学的な表現を用いて説明できるような課題を設定します。 ○記述問題における無回答数が多いことから、記述問題を行い表現できる機会を設けます。 ○学習の中に意図的に文章問題を取り入れます。
英語	2年	●全領域でほぼ全国平均・市平均を下回る正答率となっています。 ○「聞くこと」に関する学習に強みがあります。 ●領域では、「書くこと」に課題があり、正答率が特に低くなっています。また、無解答が多くなっています。	○授業やテストにおいて、英文を聞き取り、尋ねられたことに対して自分の考えを英語で書く機会を増やします。 ○しっかりと既習事項の反復練習を行い、文法や語彙の定着を図っていきます。
理科	3年	○地球・生命領域の正答率は全国平均を上回っています。 ○地層や気体など野外や科学館で学習した内容は全国平均や県平均を上回っています。 ●エネルギー・粒子領域の正答率は全国平均を下回っており、科学的思考を要する問題での正答率も下回っています。 ●元素記号や化学反応式の正答率が低くなっています。	○実験や観察などの体験を通した学習を積極的に進め、実感を伴った理解によって知識や技能が一層定着するように努めます。 ○「めあて」の提示と「ふりかえり」の時間を確保することで学習内容の定着を図り、さらに問題演習などを通して基礎的な知識や技能の定着を図ります。 ○考察の場面で個人思考の場面やグループでの話し合いを工夫し、深い学びにつながる授業づくりをしていきます。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「困っている人の手助けをしている」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を上回っており、話し合い活動でも、協力して学び合う活動ができています。 ○「自分は、友だち・先生・家の人から認められていると思う」「自分のことが好きである」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を上回っており、学校・家庭から認められているという意識を持つ生徒が多いです。 ●授業でのICT機器の使用頻度が少ない状況が課題です。	○授業において、効果的な「めあて」を提示し、授業の「振り返り」では生徒の理解の把握に務め、次の学習に生かすことのできる授業づくりをしていきます。 ○授業において、個人思考の場面やペア・グループ活動の場面を工夫し、個々の学びを深める学習を進めます。その際、考える視点をはっきりと提示し、対話的で深い学びになるような授業づくりをしていきます。 ○教員の指導力向上のため、教員同士の授業互見、研究授業の実施、ICT機器活用のための研修・実践共有を行います。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「勉強するときには、集中して勉強している」「家の人から言われなくても、進んで勉強をしている」と肯定的に回答した割合が全国の割合を大きく上回っており、家庭学習を主体的に取り組むことは概ねできています。 ●「学校に行く日は学校の授業以外に1日のどのくらい勉強をしますか」に30分～1時間と回答した人が全体の65%を占め、全国の割合を下回っています。	○自学ノートの取組や定期テスト前の学習計画表の活用、生活ノートへの記入を継続し、家庭学習時間の確保、学習の質の改善を図ります。 ○各教科で家庭学習課題を継続的に出し、学力の定着を図ります。また、課題の内容の工夫に務めます。 ○授業においても、参考資料や辞書やタブレットを活用するなど、調べて学びを深める学習活動を継続して行います。 ○キャリアパスポート等を通じて自己理解を深め、学習への意欲を高められるようにします。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「住んでいる地域が好きである」と肯定的に回答した生徒の割合が全国の割合を上回っています。 ○「学校での出来事を、家の人に話している」「家の人と決めた約束やままりを守っている」「家の人に挨拶をしている」「家の人と一緒に食事をとっている」と肯定的に回答した生徒が全国の割合を上回っており、家庭のコミュニケーションが図られています。 ●「新聞の記事を読んでいる」と回答した生徒は、全国の割合を下回っています。	○総合的な学習の時間や学校行事等を通して、地域についてより深く学ぶことができる学習活動を推進します。 ○ホームページや、学校・学年だより等を通して、地域や保護者への情報発信を積極的にを行います。 ○学校外においても、地域の方々に気持ちの良い挨拶ができるように継続して指導していきます。 ○新聞を図書室や廊下に配架し、生徒の目に触れる工夫をしています。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立佐田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

(学力調査) 【1年生】○国語の平均正答率は全国、市と比べ大きく上回り、数学は全国を大きく上回り、市を上回った。 【2年生】○2年生は平均正答率は国語、英語は全国、市と同程度であった。 ●数学の平均正答率は全国、市と比べ大きく下回った。 【3年生】○国語・理科の平均正答率は全国や県と同程度であった。 ●数学の平均正答率は全国、県と比べを大きく下回った。 (学習状況調査) ○「地域が好きである」の項目に肯定的に回答している生徒の割合が多く、中でも「とてもあてはまる」と答えている生徒の割合が全国に比べ大きい。 ○「将来の夢や目標を持っている」という項目に対し、全国と比べ1、2年生は肯定的に答える生徒の割合が多く、3年生は同程度であった。 ●「自分には良いところがある」という項目について、「とてもあてはまる」と答えた生徒の割合が全国と比べて、1年生、3年生は大きく下回り、2年生は同程度であった。	
---	--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○平均正答率は、市、全国とともに大きく上回っている。 ○「書くこと」や「漢字の読み書き」については、大幅にポイントを上回っている。 ●「読むこと」特に説明的文章の読みとりが他の項目に比べて上回るポイントが少ない。 ●文章の構成をとらえる問題の正答率が低かった。	□1学期に文章の型や構成を理解するために小学校の文章の復習をしながら学習をしたので、次の単元でもこの学びを踏まえて、文章の構成を考えさせる学習活動を取り入れていきたい。 □漢字については、毎時間の練習、月ごとの小テストの成果が出ていると感じられる。振り返り等で長く習慣が書く力に繋がっていると思われるので、引き続き続けていく。
	2年	○平均正答率は、市、全国と同程度であった。 ●正答率40～50%までの生徒が多く、分布がいびつになっている。 ●漢字の読み書きについてポイントが下回っている。 ●領域別だと「情報の取り扱い方」で大きくポイントが下回っている。	□漢字ワークの間違えやすい漢字を丁寧に取り組んだり、月ごと小テストへの学び方を指導したりしながら、引き続き指導していく。 □学級の分布図から、40%～50%の理解度の生徒に照準を合わせて単元を作っていくようにする。
	3年	○平均正答率は、全国、県とほぼ同程度であった。 ●自分の考えと理由を書く問題については正答率が低く、無回答率が高い。手紙の書き方、ちらしなど形式が決まっている書き方も知らない生徒が多い。 ●領域では「読むこと」に課題がある。特に、比較して考える設問に答えることの正答率が下回っている。	□授業の中で、閉じた問ではなく、開かれた問を投げかけ自分の考えを書かせる機会を作る。 □職場体験の令状やボランティア葉書を書く際があるので、お礼状や手紙には書式があることを知り、適切に利用できるようにする。
数学	1年	○「数と計算」「図形」「変化と対応」の領域で、市・全国の平均正答率を上回った。 ●「データの活用」の領域では、出雲市の平均正答率をやや下回った。 ●「数学の授業で習ったことを復習しているか」という質問に対し、肯定的に答えた生徒の割合が、全国の値よりも低かった。	□「データの活用」の内容の理解度を高めるために、ICTなどの視覚支援を行い、視覚的に分かりやすく学習させる。 □課題を定期的に出したり、小テストを実施することで、復習の機会を増やす。
	2年	○同類項をまとめる問題、度数分布折れ線を読み取る問題については、市・全国の平均正答率を上回った。 ○「数学の授業で習ったことを復習しているか」という質問に対し、肯定的に答えた生徒の割合が、全国の値よりも高かった。 ●4領域すべてにおいて、県・全国の平均正答率を下回った。	□学習内容を定着させるために、まんまんテストや小テストを継続して行う。 □家庭学習の量を増やし、問題を解く量を増やす。
	3年	○確率を求める問題については、県・全国の平均正答率を上回った。 ○「数学が好きですか」という質問に対し、肯定的に答えた生徒の割合が、県・全国よりも高かった。 ●4領域すべてにおいて、県・全国の平均正答率を下回った。	□基礎基本を定着させるために、朝テストや小テストを継続して行うとともに、自力では分からない生徒に対して学力補充を行う。 □ICTなどの視覚支援を行い、視覚的に分かりやすく学習させる。
英語	2年	○平均正答率は、全国、市とほぼ同程度であった。 ○問題内容別ではリスニング(内容理解)の正答率が全国、市と比べて大きく上回った。 ●領域の「読むこと」は、全国の正答率よりやや下回り、問題内容別では「長文の読み取り」の正答率が、全国、市と比べて大きく下回った。 ●記述式の問題の無解答率が市に比べ高かった。	□教科書の本文だけでなく、身の回りにある英文等に触れさせ、興味、関心を持ちながら、概要を捉える活動や、文と文の関係を捉えながら読む活動を取り入れる。 □ある程度まとまりのある文章を書く活動を意識して取り入れる。
理科	3年	○平均IRTスコアと比べて同程度だった。 ○粒子領域の「化学変化をモデルで表す」問題では、全国に比べて平均正答率が大きく上回った。 ●疑問解決のための課題を記述する(仮説を立てる)問題の正答率が大きく下回った。	□個人で疑問をもとに仮説を立てる時間を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○各教科の授業について、話を聞く、宿題をする、テストの答案の見直しをするなど基本的な学習に向かう姿勢が定着している生徒が多い。 ●「授業で、課題を通して学びが深まったり、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか。」という回答が、平均を下回っている。 ●「授業で学習したことが、将来社会にでたときや普段の生活で役にたつと考えている生徒が全国、県に比べ少ない。 ●ALTと積極的に英語で話をしている生徒が少ない。	□小単元ごとにも振り返りを行い、評価も返すようにする。 □知識だけでなく、「学び方」を学ぶことの大切さを伝えたり、身近な出来事と関連付けて指導したりする。 □各教科でペアやグループなど学習形態を工夫しながら、考え方を共有する場面を積極的に設ける。 □授業中にALTに質問をする時間を設けるなど活動を工夫したり、授業外での時間で交流する場を設ける。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「家のひとから言われなくても、進んで勉強している」という回答が9割を超えている。 ○平日の家庭学習時間が1時間以上の生徒は1年生は全国と同程度だが、2年生、3年生は全国を大きく上回っている。 ●教育課程外の学習(そろばん、英検、新聞を読む)に取り組む生徒が少ない。	□家庭学習の取り組みの頑張りを感じる声掛けを行う。取組方法の改善点なども積極的に助言する。 □自主学習ノートについてさらに主体的に取り組むため、コメントによる評価や級友のノートから自分の学習方法について考える機会をもつ。 □タブレット学習などを取り入れながら、一人一人の学習到達度を踏まえた課題を工夫する。 □様々な検定等の情報を提供する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」という項目が全国、県平均よりも高い。(3年) ○ほとんどの生徒が「自分の住んでいる地域が好きである」に肯定的な答えをしている。 ○地域の行事に参加していると答えている生徒が全国の割合より多い。 ●「夜は、時刻を決めて寝ている」「朝は自分で起きている」との回答が6割程度。(1年)	□今後もボランティア活動や総合的な学習の時間において地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、地域に貢献する意欲をさらに高める取り組みを工夫する。 □メディアコントロール、規則正しい生活習慣が確立するよう、テスト期間や生活チャレンジシートなどの機会に声掛け、支援を続ける。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生は、数学の正答率が全国平均及び市平均を大きく上回っている。
○2年生は、国語、数学、英語の正答率が市平均を上回っている。
○3年生は、国語、数学の正答率が全国及び市平均を大きく上回っている。
○3年生は、理科のIRTスコアが全国及び県平均を上回る。
○1、2年生ともに「自分が住んでいる地域が好きですか」という質問に対して全国平均を大きく上回っている。
●1、2年生ともに、「自分で時間を決めて、テレビをみている」という質問に対しての肯定的回答の割合が低い。
○3年生は、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の肯定的回答が9割を上回る。
●3年生は、タブレットやICT機器の活用についての項目が全国平均を下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全体では、全国平均と同程度である。 ○領域別の「書くこと」は、全国の正答率を大きく上回っている。 ●小問別では「意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をしている」「連用修飾語について理解している」「敬語について理解し、正しく使っている」が低かった。 ●漢字の書き取りや文法についての力が弱い。	・漢字テスト実施においては、正しい字形を意識させる事前説明や返却後の直し提出など、テスト前後を含めた指導を引き続き行い定着を図る。 ・文法は小学校既習範囲の復習機会を設定し、学び直しをすることで理解定着を図る。 ・文章の読み取りにおいては、全体の構成をとらえることや論の進め方に着目する課題に取り組む。
	2年	○全体では、全国平均をやや上回る。 ○領域別の「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、全国の正答率を大きく上回っている。 ●小問別では「漢字を書く」「叙述を基に捉える」「情報と情報との関係」が目標準より低かった。 ●類型外誤答が多い問題があった。	・「単元別漢字」を活用しながら、漢字を書く指導を行っていく。小テストを実施し、日頃から漢字を書くように指導する。 ・複数の情報を用いた問題に日頃から取り組み、情報と情報との関係を読み取らせる場を設定する。 ・類型外誤答が多いので、記述する前や読み取りの際に、キーワードを確認したり、ペア・グループ活動を取り入れたりすることで、国語が苦手な生徒も内容を把握できるようにする。
	3年	○全体では、全国平均を大きく上回り良好である。 ○領域別の「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、全国平均を大きく上回る。 ●領域「書くこと」は、全国の正答率とほぼ同程度だが、他領域と比べると低い。 ●「手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよい理由を書く」では、無解答率が高かった。	・話を聞くときに、話の構成を考えながらメモを取ることや自分の考えや根拠を書く活動を行う。 ・文章を書く時は、先に構成を考えて、時間を意識して書く機会を多く設ける。 ・さまざまなジャンルの文章を読む機会を設定し、段落の要約や感想記述に取り組むことで読み取る力、表現する力をつけ、自分の考えを書くことができるようにする。
数学	1年	○全体では、全国平均を大きく上回り良好である。 ○領域別の「変化と関係」は全国の正答率を大きく上回っている。 ●小問別では「平均を求める」「最頻値と中央値の読み取り」が低く、「データの活用での理由の説明」では無回答率が多かった。 ●文章問題を読み取り、記述・説明する力が弱い。	・授業の中で前時の内容の小テストを行い、繰り返し復習していく機会を持つことで、基礎計算の定着を図る。 ・日頃から数学的活用の問題に取り組ませ、自分の考えを図や言葉で表現したり、互いの考えを伝え合い、共有し合ったりする場を設定する。
	2年	○全体では、全国平均と同程度である。 ○内容「文字式」の正答率は全国とほぼ同程度であった。 ●小問別の「おうぎ形の中心角」「データの分布の傾向の説明」では、無回答率が多かった。 ●文章問題を読み取り、記述・説明する力が弱い。	・授業の中で前時の内容の小テストを行い、繰り返し復習していく機会を持つことで、基礎計算の定着を図る。 ・日頃から数学的活用の問題に取り組ませ、自分の考えを図や言葉で表現したり、互いの考えを伝え合い、共有し合ったりする場を設定する。
	3年	○全体では、全国平均を大きく上回り良好である。 ○領域別の「数と式」「図形」「データの活用」では、全国の正答率を大きく上回っている。 ●領域別の「関数」では、全国の正答率との差は見られないが、他領域と比べると低い。 ●説明や証明を完成する問題では、正答率は全国と同程度だが、無解答率が全国を上回っている。	・「関数」の学習では、1、2年の学習内容をふりかえりながら、繰り返し復習をして基礎の定着を図る。また、授業内容と日常生活とを関連づけて学習できるようにする。 ・自分の考えを表現できるように、話し合い活動や数学的に説明する活動を充実させる。 ・理解が不十分な生徒に対しては、TTの活用による個別指導やテスト前の補充学習などによる支援を行う。
英語	2年	○全体では、全国の平均をやや上回る。 ○領域別の「聞くこと」と「書くこと」の正答率は全国平均を大きく上回っている。 ●領域別の「読むこと」の正答率は全国とほぼ同程度だが、やや低い。 ●内容では「語形・語法の知識・理解」の正答率が全国平均を大きく下回った。	・語彙の定着のため、単語テストを単元ごとに実施する。 ・文法理解の向上のため、既習事項の復習を毎回の授業で取り入れ、繰り返し確認することで定着を図る。 ・授業では短文読解のトレーニングを行い、速読に慣れたり、文章に出てくる語彙や既習事項の復習を行ったりして、長文読解の能力向上を図る。 ・文章読解では内容の概要理解、詳細理解の問題に取り組み、文章から情報を得る練習を行っていく。
理科	3年	○IRTスコアが全国及び県平均上回る。 ○どの単元も「知識・技能」に関する問題の正答率は高い。 ●「思考・判断・表現」に関する難易度が高い問題の正答率が低い。 ●1年時の「地球」の領域に関する問題の正答率が低い。	・一つ一つの事象に関する考察の時間を増やし、結果を分析する力が身につくようにする。 ・個人で考えた考察を周りの人と共有し、周りの意見を取り入れながら、自分の思考をさらに深める場を設定する。 ・「地球」分野は、視覚的教材を使い現象・事象について分かりやすくイメージができるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1、2年生は、「先生の話をしっかり聞いている」では、各教科ともに全国平均を大きく上回る。 ●2年生は、授業の中で分からないことがあれば質問をするという生徒が全国平均をやや下回る。 ○3年生は、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができる割合が全国平均を大きく上回る。 ●3年生は、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用した割合が全国平均を大きく下回る。	□授業の中で単元ごとに身につけたい資質・能力を明確にするとともに根拠を示しながら話したり協働的に活動したりする場面を設ける。 □授業内容と日常生活とを関連付けできるようにする。 □ICT機器を活用した授業を継続的にを行い、PC・タブレットを使う機会を増やしていく。 □「めあてと振り返り」を意識した授業スタンダードを活用した一人一研究授業を行い、独自の教科群をつくって授業研究を進める。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○1年生は、「進んで勉強している」、「自分で勉強の計画を立てている」では、全国平均を上回る。 ○2年生は、全体的に「宿題はきちんとしている」では、各教科とも全国平均を上回る。 ●2年生は、「平日授業以外の学習時間が1時間程度している」生徒が半数を占めているが、残りは30分以下やほとんどしない生徒がいる。 ○3年生は、休みの日に家庭学習を1時間以上している割合が全国平均を大きく上回る。	□定期テストだけでなく、小テストや実技テストなど生徒自身が学習の状況を見取ることができるものを示すことで自己課題化を図る。 □宿題以外の学習を各教科や自学で取り組ませる。 □授業の中で、家庭学習の動機付けになるような働きかけを行う。 □学習ガイダンスやアンケート、週1回の放課後学習スクールなど、家庭学習の習慣化を図る取り組みを行う。 □タブレットを活用し、習熟度に応じた学習ができる「ドリルパーク」や学力調査の個票にある「マイアセス」に取り組ませる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○1年生は、「地域の行事に参加している」「自分が住んでる地域が好きである」という質問に対する肯定的回答をした生徒が全国平均を上回る。 ○2年生は、「自分が住んでいる地域が好きである」という質問に対する肯定的回答をした生徒が全国平均を大きく上回る。 ○3年生は、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の割合が全国平均を大きく上回る。	□地域の活動やボランティア活動の紹介を行い、積極的な参加を推進する。 □総合的な学習の時間で、3年間を費いたふるさと学習を行う。 □湖陵地域保健小中連携教育で取り組んでいる生活習慣を見直すための「チャレンジ週間」を継続して行い、基本的生活習慣の形成を図る。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- ・(1年生)国語、数学とも、全国・市と同程度である。
- ・(2年生)国語は全国を下回り、市をやや下回った。数学は全国と市を大きく下回った。英語は、全国を下回り、市をやや下回っている。
- ・(3年生)国語は全国をやや上回り、県を大きく上回った。数学は全国・県と同程度。理科は全国を下回り、県を上回った。
- 基本的な生活習慣に関する質問項目と、自己肯定感に関する質問項目は全国や市の平均と同程度か上回っている。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた生徒の割合が高い。
- 家庭での学習時間が平日・休日ともに全国平均よりも短いと答えた生徒の割合が高く、2時間以上と答えた生徒の割合が低い。
- メディアに触れる時間は大きく全国平均を上回り長い、新聞、ニュースや情報番組は視聴していない割合が高い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全ての観点別正答率が全国平均を上回ったが、市町村平均と比べると、やや下回っている。 ○領域別正答率は上回る結果もしくは同等だったが、特に「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を大きく上回っている。 ●「漢字を読む」「説明的な文章の内容を読み取る」が全国平均ならびに市の平均を下回っている。 ●記述式の問題で無回答または誤答の生徒が多い。	□毎時、漢字の小テストを行い語彙を増やしていく。 □話題や展開を捉え、それに自分の考えを付け加えて表現するような学習活動を行う。 □「文章を書く」ことにおいて、自分の考えが伝わる文章が書けるようにするために、根拠を明確にして書く活動を日々の授業に取り入れていく。
	2年	●教科全体の正答率が、市をやや下回り、全国を下回っている。 ○体験したことを文章に書く項目だけが市・全国を上回っており、説明的と文学的文章の読み取りは同程度である。 ●漢字の読み書き、文法、文を書くの5項目においては、市・全国を下回るか大きく下回っている。	□漢字の学習(書くこと、音・訓、筆順、部首)を予習とテスト形式でほぼ毎時積み上げる。 □文節や品詞に関して、既習事項を反復しながら積み上げる学習を行い、文法への理解力を高める。 □書く作業を含む問題演習を単元末ごとに行い、表現力の向上を図る。
	3年	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均よりも大きく上回っている。 ○「書くこと」「読むこと」は全国平均をやや上回る。 ○「話すこと・聞くこと」は全国平均と差は見られない。	□発表の際に、資料やICT機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうか、考える学習活動を行う。 □話題や展開を捉えながら、他者の発言も受けて、自分の考えをまとめるような学習活動を行う。
数学	1年	○教科の正答率は、市平均と同程度であり、全国平均をやや上回っている。 ○観点別に見ると、知識・技能、思考・判断・表現ともに市平均と同程度であり、全国平均をやや上回っている。 ●市平均との比較では、変化と関係の領域でやや下回り、文字と式、単位数あたりの大きさの問題で下回り、百分率の問題では大きく下回っている。	□小テストを実施したり、家庭学習を促したりすることで、各領域の基礎問題の定着を図る。 □文字と式の表し方を丁寧に確認し、知識として定着するように繰り返し問題演習を行う。 □自分の考えを、根拠となることを明確にして記述・発表させる場面を意図的に取り入れる。
	2年	●教科全体において正答率が市、全国を下回っている。 ●【領域】では「数と式」、「図形」、「内容別」では「正の数・負の数」、「文字式」、「1次方程式」、「図形」の正答率が市、全国を大きく下回っている。 ●全体の3分の1の問題で無回答が20%を超えている。	□課題テストや小テストを実施し、それにむけての家庭学習を促すことで、各領域の基礎問題の定着を図っていく。 □数と式の問題は、1年から3年までつながる内容であることをおさえ、既習事項と関連づけながら基礎の定着を図る。 □説明する問題では、手順やポイントを提示し、手順に沿って繰り返し練習したり、生徒同士で説明しあったりすることで力を身につけさせる。
	3年	○すべての領域について、県平均や全国平均を上回っている。 ○問題形式においては、選択式、記述式について、県平均や全国平均を上回っている。 ○無回答の状況が、すべての問題で低い傾向にある。 ●「数量を文字で表す」「式の意味を読み取る」問題に弱みが見られる。	□問題集を活用し、それにむけての家庭学習を促すことで、各領域の基礎問題の定着を図っていく。 □生徒同士の教え合いの時間を設け、対話を通して理解を深めていく。 □数式の問題において、具体的な数値を代入して数のイメージをもちながら取り組むことで文字を使った問題への理解を深める。
英語	2年	●教科全体の正答率が、市・全国を下回っている。 ●観点別正答率では「思考・判断・表現」に課題が見られる。 ○「単語の並び替えによる英作文」が市・全国を上回っており、「リスニング(内容理解)」と「長文の読み取り」は同程度である。●「場面に応じて書く英作文」「情報に基づいて書く英作文」「3文以上の英作文」が、市・全国を下回るか、大きく下回っている。	□「聞くこと」に関しては、日常的に英語の対話を聞く活動を取り入れる。 □「読むこと」に関しては、さまざまな分野の話を読み、大まかな内容理解だけでなく、読んだ内容をまとめたりなどの発展的な学習を行う。 □「書くこと」に関しては、自分の考えを伝える場面設定を工夫し、強みである語順の理解を活用して表現する活動を増やしていく。その際、話す活動でさまざまな語彙、語形、語法を使うことに抵抗感をなくし、書くことにつなげていく。
理科	3年	●教科全体のIRTスコアが市を下回り、全国と同程度であった。 ●元素記号の正答率が県、全国を大きく下回っている。 ●地層から考える問題の正答率が全国を大きく下回っている。 ○探求の課程における振り返りの正答率が県・全国を上回っている。 ○無回答の割合が県・全国より低かった。	□小テストを実施したり、家庭学習を促したりすることで、基礎基本の定着を図る。 □身近な現象や事象と学習内容が結びつけられるような授業の導入にし、振り返りにおいても、その結びつきをより意識したものにしていく。 □説明し合う活動を多く取り入れ、理科の事象や現象を自分の言葉で説明できるよう工夫する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1,2年で「授業で先生の話をしっかりと聞いている」と答えた生徒の割合は、全国平均よりも大きく上回っている。 ○「話し合い活動で、自分の考えを積極的に話している」、「話し合いで、相手の話をしっかりと聞き取っている」と答えた生徒の割合は、全国平均よりも大きく上回っている。 ●授業や学習でタブレットを利用すると答えた生徒が全国平均を下回る。	□話し合い学習で積極的に自分の考えが出せるように、ペアや小集団の話し合いを増やしたり、話し合い学習での約束事をつくったり、役割を決めたりするなどして、積極的な話し合い活動になるように工夫する。 □進路学習を計画的に進め、生徒自身が自分の将来について考える機会を設け、進路意識を高め学習意欲の向上につなげる。 □生徒はICTを使用した学習について意欲的である。加えて調べ学習や教科の学習に関連した図書を用意し、生徒自身が主体的に媒体を選択して学習ができるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1,2年生は「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」、「授業で習ったことは、復習している」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。 ●平日の家庭学習の時間が、30分以内、休日の学習時間が一時間以内と答えた生徒が全国平均を大きく下回る。 ●「勉強に役立つテレビ番組を見ている」、「新聞の記事を読んでいる」、「本を読んでいる」と答えた生徒の割合は、全国平均を大きく下回っている。	□家庭学習の習慣がつかうように、指導を工夫し、生徒自身が現状を振り返り改善していけるよう指導していく。 □ICTを活用し、主体的に学習できる家庭学習になるように内容を工夫する。 □授業で時事問題に興味関心を持たせられるよう、新聞記事を読む学習を取り入れたり、社会のニュースについて関心を持つような学習や活動を行ったりする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分の住む地域が好きである」と答えた生徒が全国平均を上回る。 ○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた生徒の割合が、学年が上がるごとに上がっている。 ○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに「当てはまる」と答えた生徒が全国平均よりも大きく上回っている。 ●「平日のメディアの使用時間」についての質問で、市の平均利用時間を大きく上回っている。	□家庭とも連携しながら、自分のメディアへの接し方、時間の使い方について考える学習を行う。 □総合的な学習の時間に行ふふさと学習を通して、地域についての理解を深め、地域のために何ができるかを考える機会を設けていきたい。自分の住んでいる地域だけでなく、他地域に目を向ける学習も取り入れることで、自分の地域と比較し、よさや魅力を発見できるような学習を取り入れる。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川東中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

(学 力 調 査) ●1年生国語は市・全国平均より下回っている。○数学は市の平均は下回っているが、全国平均は上回った。
○2年生国語は市平均を大きく上回り、全国平均も上回った。数学・英語は市、全国とも同程度である。
○3年生国語は、県・全国平均と同程度である。●数学は、県平均をやや下回り、全国平均は大きく下回った。○理科は、県・全国平均より上回っている。

(学習状況調査) ○学習活動に関する質問に対しては、概ね良好な回答状況である。テストの答案の見直しや授業の復習をしている生徒が平均を大きく上回っている。
特に1・2年生は、学習した知識を家族や友人に話をする生徒が平均を大きく上回っている。
●全学年を通して、家庭学習にかける時間が市や全国の平均と比べて少ない。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○平均正答率は市平均をやや下回り、全国平均と同程度であった。 ○話すこと・聞くことにおいて、市平均、全国平均をやや上回った。 ○内容別の文法・語句に関する事項は、市平均、全国平均を大きく上回った。 ●内容別の漢字を読む、文章の読み取り、文章を書くことが、市・全国平均ともに大きく下回っている。	○漢字テストにおいて、正しい字形を意識させる事前説明や、返却後の直し提出など、テスト前後を含めた指導を引き続き行い定着を図る。文法は既習範囲の復習機会を設定し理解の定着を図る。 ○単元に関連した図書や新聞記事などを紹介し、さまざまなジャンルの文章に触れたり読んだりすることで、語彙力・表現する力をつける一助とする。
	2年	○平均正答率は市平均を大きく上回っている。基礎、活用ともに市平均を上回っており概ね良好な状況である。 ○領域別では、言語に関する事項で市・全国ともに大きく上回り、書くことにおいては市平均を大きく上回っている。その他の領域においても市・全国とほぼ同程度であり概ね良好と言える。	○単元漢字テスト、受験を見据え定期的に全校実施する漢字テスト等の取組を通して読み書きの定着を図る。 ○文章の読み取りにおいては、全体の構成をとらえるような課題、論の進め方や表現について着目する課題などに取り組みせ、条件に応じた表現ができる力をつける。
	3年	○平均正答率及び思考力・判断力・表現力では県・全国平均と同程度であった。 ○根拠を明確にし、表現を工夫して書くことにおいては県・全国平均を大きく上回っている。 ●内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考える事項においては、県・全国平均を下回った。 ●根拠を併せて書くことにおいて無回答率が高い。	○単元漢字テスト、受験を見据え定期的に全校実施する漢字テスト等の取組を通してさらなる定着を図る。また、文法など言葉の力をつけるために授業中の復習時間を随時設定する。 ○文章の読み取りの中で全体の構成をとらえるような課題、論の進め方や表現について着目する課題などに取り組みせ、条件に応じた表現ができる力をつける。
数学	1年	○平均正答率は基礎、活用とも全国平均をやや上回っているが、市平均よりは下回っている。 ●整数の性質、文字と式、いろいろなグラフの読み取りが全国平均を大きく下回っている。	○既習事項を確認しながら、くり返し問題を解く時間を設け、基礎・基本の定着を図る。 ○ICT機器を活用して、いろいろなグラフの特徴が理解できるような授業を工夫する。
	2年	○数と式の問題は全国平均を上回っている。 ●比例・反比例、平面図形の問題は、全般的に正答率が低い。	○小テスト等を活用しながら、繰り返し問題を解かせ、さらなる定着を図っていく。 ○平面図形については、視覚支援として図や絵を示す。 ○変化の様子を示す際には、ICT機器等を活用しながら行う。
	3年	○データの活用問題は県平均を上回っている。 ●数と式の問題は平均を大きく下回っている。 ●求め方等を説明する問題で正答率が低く、無回答率が高い。	○既習事項を確認しながら授業を進め、基礎・基本の定着を図る。 ○文章問題や記述問題に触れる機会を増やす。また、生徒の発言に対して問い返しをし、なぜそうなるのか理由を考えさせる。
英語	2年	○語順を理解し英文を並べかえる問題や3文以上で英文を書く問題での正答率が全国平均を上回っている。 ●情報(3人称単数現在形)に基づいて正しく英文を書く問題に課題がある。 ●図などから内容を理解し、情報を読み取ることに課題がある。	○図や表から英文を読み取る問題に慣れさせるために授業で取り組んでいく。 ○「書くこと、読むこと」「話すこと、聞くこと」の英語活動を意識的に増やしていく。 ○既習文法事項を確認しながら授業を進め、文法事項の定着を図る。
理科	3年	○IRTバンド1の生徒が一人もいない、IRTバンド5の生徒が平均を上回っている。また、IRTバンド3の生徒が48.4%と平均を大きく上回っている。 ○実験においての問題解決をはかる問題や、【考察】をより確かなものにする実験を選択できる問題の正答率が平均を上回っている。	○これまで同様、探求の過程を常に意識した実験・観察に取り組み、考察を丁寧に行っていく。実験・観察で注意する点など、「なぜそうするのか」を常に意識して取り組むよう指導していく。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1・2年生は、学校で習ったことを家族や友人に話をする生徒や自分の思ったことを積極的に話をしている生徒、自分の考えをわかりやすく文章に書いている生徒が平均を大きく上回っている。 ○調査した全ての教科で授業の復習をしている生徒が平均を上回っている。 ●1・2年生で、分からない言葉を辞書で引く生徒は平均を大きく下回っている。 ●1・2年生で授業で分からないことがあれば先生に質問する生徒は、平均を大きく下回っている。	○各教科の授業では、これまでと同様話し合いのを取り入れるようにする。また、「私の歩み」を活用し日々あった出来事から自分で考えたことなど、書くように指導する。 ○国語の新出漢字や意味調べをこれまで通り行い、分からない言葉を調べる方法は辞書以外にもあることを指導していく。 ○授業後の振り返りの時間に、生徒が自由に先生に質問できる時間を短時間でも設けるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●平日の家庭学習時間は、1年生は30分未満の生徒が約47%、1時間～1時間30分の生徒が約44%、2時間以上が8.9%。 2年生は30分未満32.5%、1時間～1時間30分が61.5%、2時間以上が6%。3年生は30分未満が12%、30分～1時間未満29.3%、1時間～2時間未満が44.6%と大半を占め、県や全国平均と比べて家庭学習時間が少ない。	○タブレットの持ち帰りを薦めているが、実際の家庭学習として活用している生徒が少ないため、出雲市が推奨しているドリルパークを長期休業中の課題はもちろん、家庭における学習の振り返りやテスト前の腕試し等に積極的に活用していく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○自分が住んでいる地域が好きだと肯定的に答えた生徒が90%を超えている。 ●地域の行事に参加している生徒が市平均を大きく下回っている。 ●本を読む生徒や新聞記事を読み、テレビでニュースを見る生徒も平均を大きく下回っている。	○地域に根ざしたふるさと学習を今後も継続し、地域の方々と触れ合う機会をもっていく。 ○中学生向け新聞を2種類定期購入し、昇降口前テーブルに設置して誰でも見られるようにしている。また、昇降口に新作図書等を紹介するコーナーを設置し、図書室へ行かなくても、本に興味を持たせる工夫をしている。 ○ボランティア委員会が適宜呼びかけ、地域の駅清掃活動や地域のお祭りイベントスタッフの募集を積極的に行っている。

令和7年度(2025)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川西中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【1年 出雲市学力・学習状況調査】
○教科の正答率が全国平均正答率と比較して、国語はやや上回り、数学は大きく上回った。
【2年 出雲市学力・学習状況調査】
○教科の正答率が全国平均正答率と比較して、英語は同程度だが、国語は大きく下回り、数学は下回った。
【3年 全国学力・学習状況調査】
○教科の正答率が全国平均正答率と比較して、数学は同程度で国語はやや上回った。理科の平均スコアは全国を上回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全ての領域において、全国平均と同程度である。	□文章の構成や展開、表現の工夫等について、「読むこと」と「書くこと」の両方から指導する。
	2年	●「漢字を書く」において、全国平均を大きく下回る。 ○「文学的文章の読み取り」では、全国平均と同程度である。	□授業で実施している漢字の小テストを引き続き行う。 □文章の構成や展開、表現の工夫等について、「読むこと」と「書くこと」の両方から指導する。
	3年	○「読むこと」において、全国平均を上回る。 ○「書くこと」において、全国平均を大きく上回る。	□授業で実施している漢字の小テストを引き続き行う。 □「話すこと・聞くこと」の領域において、自分の考えを筋道立てて説明したり、相手の話を整理しながら聞いたりする学習を設定する。
数学	1年	○「データの活用」の正答率が全国平均を大きく上回る。 ○「整数の性質」以外の全内容の正答率が全国平均を上回る。特に、「平面図形」「百分率」「データの活用」では全国平均を大きく上回る。 ●「整数の性質」の正答率が全国平均を大きく下回る。	□フラッシュカードを活用して反復練習を取り入れたり、ドリルパークを活用したりすることで、基礎・基本の定着や復習を図る。 □「教え合い」を行い、教わる生徒・教える生徒それぞれが自身の理解を深めることができるようにする。
	2年	●「データの活用」の正答率が全国平均を大きく下回る。 ○「正の数・負の数」の正答率が全国平均を大きく上回る。 ●「1次方程式」「データの分布」の正答率が全国平均を大きく下回る。	□フラッシュカードを活用して反復練習を取り入れたり、ドリルパークを活用したりすることで、基礎・基本の定着や復習を図る。 □「教え合い」を行い、教わる生徒・教える生徒それぞれが自身の理解を深めることができるようにする。
	3年	○「図形」の正答率が、全国平均を大きく上回る。 ○「多角形の外角」「確率」「グラフの読み取り」の正答率が、全国平均を大きく上回る。 ●「素数」「1次関数」「式による説明」の正答率が全国平均を大きく下回る。	□フラッシュカードを活用して反復練習を取り入れたり、ドリルパークを活用したりすることで、基礎・基本の定着や復習を図る。 □「教え合い」を行い、教わる生徒・教える生徒それぞれが自身の理解を深めることができるようにする。
英語	2年	○活用問題や、思考・判断・表現の力を問う問題で全国平均をやや上回る。 ○自分について問われた問題で、条件に合う英文を書くことは全国平均を大きく上回る。 ●be動詞や、一般動詞、助動詞を用いて正確に英文を書く力は、全国同様正当率が低い。聞き取った内容を理解することはできているが、要点をとらえて自分の考えを書くことは目標値を大きく下回る。	□ペアやALTとの会話の際には、多く表出される誤文例を全体で取り上げ、正しい文法で英文を再構築させる。 □タブレットPCを使った基本的なドリル練習を家庭でできるように指導する。
理科	3年	○「理科の勉強が得意・好き」「理科の授業の内容がよくわかる」と肯定的に答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回る。 ●「理科の授業で課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか」という質問に肯定的に答えた生徒の割合が全国平均を大きく下回る。	□理科の授業において、現象との出会いを工夫し、生徒自身が問題を見いだし、課題を設定する場面を積極的に設ける。 □教科で共通の振り返りシートを作成・活用し、授業において生徒が本時の学びや単元を通した自分の変容を自覚できるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1・2年生ともに「国語の話し合いで、自分の考えを積極的に話している。相手の話をしっかり聞き取っている」「伝えたいことを明確にして、論理や構成を工夫して文章を書いている」生徒が全国平均より大きく上回る。 ○「授業を理解している」生徒は、1年生は国語や数学、2年生は国語や英語で全国平均を大きく上回る。 ●「授業の最後に学習したことを振り返る活動を毎回行っていたと思う」生徒が1年生は出雲市平均を大きく上回るが、2年生は大きく下回る。 ●2年生は「授業でわからなかったことがあれば先生に質問をしている」生徒が全国平均を大きく下回る。 ●「授業中にICT機器(タブレットPC、パソコンなど)を週に数回以上使用した」生徒が1・2年生ともに出雲市平均を大きく下回る。3年生は「週3回以上使用した」生徒が全国平均を大きく下回る。	□「学習のしおり」等を使い、授業でわからなかったところをどう解決していくのか学習の取り組みについて指導を行う。また、少人数でのグループ活動やICT機器を積極的に活用するなど、授業改善に取り組む。 □振り返りの時間や話し合いの時間を確保する。自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして考えを深める活動を継続的に実施する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○3年生は「将来の夢や目標を持っている」「読書が好き」と答えた生徒が全国・県平均を大きく上回る。 ○「自分で勉強の計画を立てて勉強している」生徒が1・2年生ともに全国平均を大きく上回る。 ●「学校に行く日は学校の授業時間以外に30分以下しか勉強しない」生徒が1年生は49.9%、2年生は63.2%で全国平均を大きく上回る。さらに、2年生は「ほとんど勉強しない」生徒が23.1%と全国平均を大きく上回る。3年生は「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)や休日1日当たり1時間以上勉強している」生徒が、全国・県平均を大きく下回る。	□家庭学習の意義や仕方等について説明し、家庭学習とつながる授業づくりを進める。各教科で計画的に課題を与え、家庭学習の習慣化を図る。 □家庭学習・授業内容の定着を目指し、タブレットPCでドリルパーク等の課題の配信を行う。更に与えられた課題だけでなく、主体的に取り組んでいけるよう学習指導も行う。 □将来の夢や目標に向けて進路計画を立てさせ、家庭学習の内容や時間の充実に図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○3年生は「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」生徒が全国・県平均を大きく上回る。 ○「自分が住んでいる地域が好きである」生徒が1年生は92.3%、2年生は88.8%で全国平均を大きく上回る。 ●3年生は「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある」生徒が全国・県平均を大きく下回る。 ●1・2年生ともに「地域の行事に参加している」生徒が全国平均を下回る。 ●2年生は「地域や社会をよくするために何をしたらよいか、考えることがある」生徒が全国平均を大きく下回る。	□地域と連携し、地域の教育資源を活用した学習活動を行う。 □コミュニティセンター等と連携して、地域の行事やボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会や地域と関わる機会を増やす。 □学校便りや学年通信を発行し、家庭や地域との連携を図る。